

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

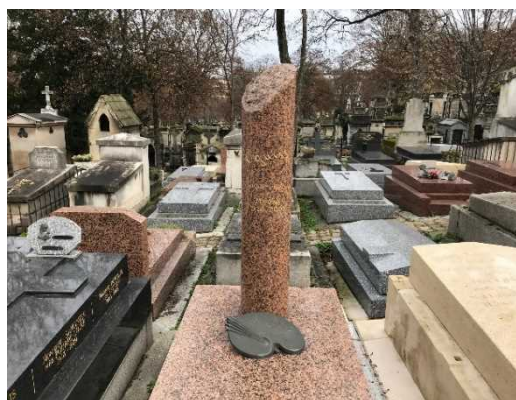
33 パリに眠る日本人（2021年2月12日）

パリにあるペール・ラシェーズ墓地、モンパルナス墓地、モンマルトル墓地には、当地で客死した世界各地の人物の墓が多くあります。実はこれらの墓地には、フランスで生涯を終え、パリに眠る日本人の墓もあります。

ペール・ラシェーズ墓地には、佐賀藩（現在の佐賀県）出身の野中元右衛門（1812-1867）の墓があります。日本は、1867年のパリ万国博覧会に参加しました。これは、日本が初めて参加した国際博覧会でした。野中は、パリ万博で佐賀藩の物品を販売するために、佐賀藩が派遣した代表団の一員でした。しかし、2か月にわたる長旅で体調を崩した野中は、パリに到着するとまもなくして亡くなりました。野中は、パリで亡くなった最初の日本人であると言われています。



モンパルナス墓地に墓があるのは、初代駐仏特命全権公使の鮫島尚信（1844-1880）です。鮫島は、外務大輔（現在の外務次官）を務めた後、二度目のパリ在勤中に病に倒れ、36歳の若さでこの世を去りました。外交関係樹立160周年を迎えた2018年に、顕彰プレートが設置されました。



モンマルトル墓地にある珍しい形の墓は、画家の荻須高德（1901-1986）のもので、墓石の足元にはパレットをかたどったオブジェが置かれており、画家らしいデザインの墓です。荻須は、26歳の時に渡仏しました。1928年のサロン・ドートーヌに入選したことで画家として認められ、半世紀以上にわたってパリの風景を描き続けました。

マルセイユに眠る先人たちについては、在マルセイユ日本国総領事館が紹介しています (https://www.marseille.fr.emb-japan.go.jp/itpr_ja/ohaka.html)。 (日本語のみ)